

人の数だけ、生き方がある。

自分らしい選択をしながら地域で輝く皆さんを紹介しします。

One's Life

(より豊かに生きるためのヒントをお伝えします)

かつての関所から、 子どもたちの未来をひらく



株式会社
GOOD LOOP
代表取締役
さいとう のぞみ
齊藤 望さん

【Profile】1971年、平川市碓ヶ関(旧碓ヶ関村)出身。1993年に平川市役所へ入庁。2023年に約30年勤めた市役所を退職し、青森市の民間企業を経て、2024年に株式会社GOOD LOOP(グッドループ)を設立。2026年1月、JR碓ヶ関駅の待合室を改装したカフェ・ブックストア・パー「RUUP/ (ルウブ)」をオープン。自治体DX支援やNPO活動など、複数の顔を持つパレールワーカーとしても活躍中。

県境の小さな駅から

青森と秋田の県境、山あいひっそりとたたずむ平川市碓ヶ関。江戸時代には津軽藩の関所が置かれ、人と物が行き交った歴史を持つ一方、現在は人口約1,900人、小・中学校は各学年十数人という小さな地域です。そのJR碓ヶ関駅に、2026年1月、待合室をリノベーションした木のぬくもりあふれるお店「RUUP」が生まれました。

「GOOD LOOP」という会社のコンセプトが『みんなのしあわせをぐるぐるまわす』なんです。そのためには、みんなのしあわせを集めないといけないと考えました。まずは人が集える場所を作ろうと。人が集まったら「何か飲みたいね」とか「食べたいね」、そんな声が聞こえてくるんじゃないか。だったら書店もやっちゃおう。全国的に書店が減少して学びの入口が少なくなっているから本と出合える場所もほしい」

そう語るの、店主の齊藤望さん。コーヒーやお酒を飲みに来る大人、地元の小中高生、おもちゃで遊びに来る家族連れ、秋田県からの来訪者……。かつての関所のように多彩な人々が

行き交うこの場所は、オープンからわずか数ヶ月で「JR東日本地域共創アワード」で優秀賞を受賞するなど、県内外から注目を集めています。

店内で書棚として使用している木箱ベンチは2日がかりのDIY(Do It Together)というワークショップで県内外からの参加者と一緒に製作し、その書棚は月額3,000円(税込)でレンタルしていて、誰でも「ボックスオーナー」になれるシェア型書店には移住者や県外からの出品が並びます。

「敵は己」——自分との約束を守るだけ

市役所では子育て健康課長やワクチン接種対策室長を務め、最前線の激務を経験。「50歳で早期退職しよう」と決めていましたが、ちょうどコロナ禍と重なって退職できず、52歳で退職しました」

次々とアイデアを形にしていって原動力を尋ねると、答えは明快でした。

「『いつか』とか『そのうち』という言葉が大嫌いです。やろうと思ったことを、ただやっている。シンプルに、自分との約束を守っているだけ。自分との約束は破ってもペナルティがない。だから敵は己なんです」

子どもたちの「初めて」がある場所に

「子どもたち」が一つのキーワードなんですと齊藤さん。毎月第4金曜の朝6時半、店では廃棄予定のパンを譲り受けて通学途中の中高生に朝食として提供しています。フードロス削減と子どもたちの健康づくり、2つの課題に同時に取り組む「GOOD LOOP」です。週末の夕方には子どもたちが自然にドアを開けて入ってきて、地域のイベントでは中学生が演奏を披露し、高校生は初めてのアルバイトに挑戦する……。初めてコーヒーを飲むとか、初めて

のデートとか。子どもたちの『初めて』の場所にしたいんです」

自動販売機より少し高くても、店でドリンクを注文する中学生には、対価について問いかけます。「彼らはここで過ごす時間に対してお金を払っているんですよね」。どうすれば商品に付加価値をつけて売れるかを考えさせる企画も構想中で、「ゆくゆくは教育をやっていききたい」と力を込めます。その根っこには、子育て健康課長時代に向き合った地域の課題があります。「孤立させない。人に頼るとか、弱いところを見せられる地域の関わりが大事なんです」

山の向こうの選択肢を見せたい

この春には、愛媛県のFC今治高校の生徒を住み込みのインターンとして受け入れ、地元の小中学生との交流の場をつくりました。「この辺の子どもたちは、中学を卒業するとだいたい弘前市の高校へ、という選択肢になってしまいうそうじゃないんだ、こういう高校生もいるんだという選択肢を見せたかった」

一方で、子どもたちを地元縛るつもりはありません。「出ていく人は出て行って、戻ってくる人は戻ってくればいい。その人の人生だから。ただ、こういう店があって楽しかったな、自分もやってみたいなと思ってもらえたら嬉しいし、『碓ヶ関出身です』と胸を張って言える故郷にしたい」

かつて関所として人々を見送り、迎えてきたこの土地で、齊藤さんは今日も子どもたちの行き先を照らしています。「できないことはやらない、碓ヶ関でも自分の得意な分野で楽しく誇りを持って生きていけるんだ、ということを見せるのが大事ですよ」。その言葉は、山の小さな駅から、まっすぐ未来へ向かっていました。

(取材…斎藤美佳子)

